

2024年度（令和6年度）梅田リーグ 教育（二部）リーグ 実施要領

会 場 梅田小学校

- 競技資格 ① 参加該当選手は、リーグ戦登録選手とし、試合出場機会の少ない選手を対称とする。
（4年生～5年生が主であり、3年生、6年生も可とする）
② 代表者（成人）が必ず引率して参加できるチームであること。
③ 参加者全員がスポーツ傷害保険に加入していること。
④ ティーボールとの重複登録は3年生のみ認める。

チーム編成 メンバーは各チーム固定として、単独チームの他、合同チームも可とするがリーグ開催前に決めておく。
1チームの構成メンバーは15名程とする。
参加チームの指導者は、引率・指導・審判等をするため4名以上で参加すること。

試合方法

- (1) 育成を主とする二部リーグ（またはBリーグ）および教育リーグを、試合形式で開催する。
（審判の育成も兼ねる）
- (2) 開始時間はA面の第3試合目とする。
（試合数・内容・試合日は別途打ち合わせとする。）
- (3) 試合時間は適宜決定する。
- (4) コールドゲームは特に取り決めしない。
- (5) 雨天中止およびやむなく中止の場合は次回に順延とする。
- (6) 二部リーグ（教育リーグ）は、一部リーグが休みの場合でも実施することがある。
- (7) 延長戦は行わない。
- (8) 使用ボールは、公認J号球とする。
- (9) ヘルメットは必ず、打者、次打者、走者、走塁コーチとも着用のこと。チームで7個以上用意のこと。
- (10) 金属製バットは、公認（J S B Bマーク入）のものに限る。
- (11) 捕手用マスク及びヘルメットは、危険防止のためにも公認(SGマーク入り)のものを着用すること。
- (12) プロテクター・レガース・スロットル・ファールカップは危険防止のために着用すること。
- (13) スパイクは、金具のついたのは使用できない。
- (14) 一試合中1投手の投球数は、**50球**とする。ただし、当該打者の終了までの続投は認める。
- (15) 抗議ができるのは、監督と当該プレイヤーのみとする。

- (16) 木製のバットを2本以上、用意することが好ましい
- (17) 公認規則5・10（d）〔原注〕「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから、投手以外の守備位置に移ることもできない。投手以外の負傷退場した野手に代って出場したプレイヤーは5球を限度としてウォームアップが許される。」の前段は採用しない。したがって、投手の守備位置の交代は自由である。
- (18) 1イニングの最大得点を**5点**として、攻守交代となる。
- (19) 打撃専門の選手1名を先発メンバーに登録し10人攻撃としてもよい。
- (20) リエントリー制を導入いたします。
- (21) DHをリエントリーの対象としても構わない。
- (22) その他は、野球規則（最新版）で行う。

注意事項

- (1) 参加チームは、当日の9時までに参加人数を当日の事務局本部受付に届けること。
- (2) 試合中のヤジ等については、指導者が十分注意すること。
- (3) 走塁コーチは登録選手が行う。
- (4) 試合前のシートノック及びバッティング練習等の時間は特別には設けない。
- (5) グラウンド（校庭）以外でのキャッチボール、バッティング等の練習は禁止する。
- (6) 参加人数等の諸事情により試合実施が不可能な場合は該当選手の育成を考えて行動する。
- (7) 試合開始予定時間30分前には集合のこと。
- (8) 登録の変更は、チームの最初の試合まで。（ただし、チーム間の変更は認めない。）その後は変更できない。
- (9) メンバー表には、先発の10名及び、交代要員を記入する。出場申込書によって登録の有無を確認する。登録選手の10名以上がベンチ入りすること。
- (10) 試合中の指導者とのキャッチボールは許可します。（ただし、ピッチング練習のキャッチャーをするのであれば、防具を着用のこと。）
- (11) 球場内練習時のバット使用は素振りとバントのみとする。（必ずヘルメット着用のこと）
- (12) グローブの紐の長さの制限。紐が鞭のようになり危険防止。（支部では親指の長さを推奨
- (13) グラウンド内(ベンチ含)での服装に注意すること。（短パン、スパッツ禁止）

各試合の審判について

当日の審判は当該チームにて実施する。

抽選方法について

- (1) 審判員及び試合終了時に出場していた両チームのメンバーが、投手からポジション順にあいさつの状態に整列する。
- (2) 抽選用紙に○印、×印各9枚記入したものを封筒に入れる。
- (3) 球審が18枚の封筒を持ち、先行チームより1枚ずつ交互に選ばせる。
- (4) 二人の審判員が両チームの監督立会いのもとに開封し、○印の多い方を抽選勝ちとする。

連盟取り決め事項

- (1) ファールボールが打たれた場合は、一塁側の一塁側ベンチ、三塁側の一塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側ですみやかに処理する。
- (2) 攻守交代の時には、ボールを必ず投手板近くに置いて交代すること。
- (3) 投手の準備投球は原則として、試合開始の表裏、救援投手は捕手を相手に7球以内（時間にすれば1分以内）とし、次回からは3球以内とする。
- (4) 攻撃側は、第三アウトが成立したら、プレイヤーは素早くベンチを離れて、駆け足で守備に向かうこと。とくにバッテリーは、準備投球があるから、率先してベンチからでること。
- (5) 投手は返球を受けたら直ちに投手板について投球姿勢をとらなければならない。なお、打者が打撃姿勢をとっているのに、投手がボールをもってマウンド上で無駄な動きをしたり、投手板についてもなかなか投球しなかった場合は注意を与える。
- (6) 投手の塁への送球で無用と思われる塁への送球が度を過ぎれば注意を与える。
- (7) 捕手は、できるだけ捕手席から投手に返球すること。
- (8) 捕手が、投手のところへ行くときは、往復とも駆け足とする。
- (9) 次打者は、前打者の打撃が完了したら、すみやかに打者席に入って打撃姿勢をとること。
- (10) 打者は、打者席を外してサインをみることを禁止する。
- (11) 打者は、「タイム」を要求してロージンを付けに行くことは許されない。
- (12) ファールボールが打たれたときは、走者は駆け足で戻ってもとの塁に触れること。
- (13) 内野手が投手のところへ集まるときは、往復を駆け足で行い、このためにプレーの開始を遅らせてはならない。
- (14) 監督は、ピンチの時以外は、投手を交代する時を除いて、投手のところへ行くことは許されない。なお、選手をベンチに呼び寄せることを禁止する。

- (15) ベンチから、数多く無用と思われるサインを送ることは許されない。
- (16) 捕手を含む内野手が、1試合に投手の所にいける回数を、3回以内とする。
- (17) その他の事項については、（公財）全日本軟式野球連盟発行の競技者必携（最新版）少年野球に関する事項を読まれること。